

2012

Mongolia Exchange Program



International
Student
Association

2012/08/10~2012/08/20

目次

団長挨拶	2
EX 概要	3
・開催の目的	3
・協力者	3
・場所	3
・参加者リスト	4
・日程および構成	5
事前勉強会報告	6
日別活動報告	6
フリーテーマエッセイ	25
必要な持ちもののリスト	43
文化紹介感想	46
次世代へのアドバイス	49



団長挨拶

大草原で1週間「何もしない」プログラム。

それがモンゴル Ex です。

色々なことから開放され、自分の体一つとギター一本だけで楽しむことができました。

牛たちの鳴き声、地平線まで続く大草原、みんなの歌声、お手製のトイレ。

全てが最高の思い出です。

生まれて初めて満天の星空という言葉が似合う空にも出会う事ができました。

そんなプログラム「モンゴル Ex」

ぜひみなさんも参加してみてはいかがでしょうか？

モンゴル Ex メンバー全員と大草原に感謝と愛をこめて

モンゴル Ex2012 団長 相馬 慎哉

EX 概要

・開催の目的

モンゴルの人々・学生との交流、文化紹介、草原での遊牧民生活体験、首都ウランバートルでの観光・ホームステイなどを通じて、日本とモンゴルの相互理解を深める。

・協力者

Bold Javkhlantugs さん(モンゴルの日本語教師)

・場所

モンゴル国ウランバートル市の草原と市内



. 参加者リスト

	名前	学年	支部	役職
1	村里 早智	5	神戸	財務
2	藤野 大樹	5	神戸	副団長
3	池田 奈那	4	神戸	副団長
4	柴口 徹哉	4	神戸	広報
5	勝瀬 智	4	神戸	勉強会
6	木下 陽介	4	神戸	広報
7	蔵本 司	4	神戸	勉強会
8	相馬 慎哉	4	神戸	団長
9	横井 星帆	4	神戸	報告書
10	古屋 誠彦	3	神戸	文化紹介
11	新見 京子	2	神戸	文化紹介
12	中 雄佑	2	神戸	国際渉外
13	小原 伸朗	1	神戸	財務
14	藤村 功	1	神戸	チケット
15	船引 紫緒梨	4	大阪	勉強会
16	武蔵 翼	4	大阪	勉強会
17	岩根 悠	4	京都	報告書
18	上原 万理子	2	東京	文化紹介
19	奥迫 翔子	2	東京	報告書
20	石田 光	2	岡山	文化紹介
21	石村 祥	2	岡山	文化紹介
22	今里 基	5	九州	チケット
23	麓 磨紀子	2	九州	報告書
24	山口 弘将	2	九州	ML・薬

・日程および構成

Date	Location	Accommodation	Movement
1日目 8月10日	チンギスハーン国際空港— 草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 自己紹介 など
2日目 8月11日	草原—テレルジ	草原—ゲル	遊牧民生活体験 テレルジ国立公園—かめ岩 など
3日目 8月12日	草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 など
4日目 8月13日	草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 など
5日目 8月14日	草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 シャワー(女子) など
6日目 8月15日	草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 家畜の乳搾り シャワー(男子) 文化紹介 スイーツパーティー など
7日目 8月16日	草原	草原—ゲル	遊牧民生活体験 など
8日目 8月17日	草原—ウランバートル市	ウランバートル (ホームステイ)	自由行動
9日目 8月18日	草原—ウランバートル市	ウランバートル (ホームステイ)	自由行動
10日目 8月19日	草原—ウランバートル市	ウランバートル (ホームステイ)	自由行動 民族舞踊コンサート さようならパーティー(カラオケ)
11日目 8月20日	ウランバートル市—空港		

事前勉強会報告

日程 6月30日(土)～7月1日(日)

会場 神戸学生青年センター

目的 日本人メンバーと親睦を深める。

モンゴルについて各自調べた情報をプレゼンテーション形式で発表し、理解を深める。

プログラム期間に行なう企画の確認。

内容 (日中)

- ・食事
- ・モンゴルについてのプレゼンテーション発表
- ・文化紹介の内容決め
- ・スイーツパーティーの持ち物振り分け決め
- ・航空券確認

(夜)

- ・カレー作り
- ・親睦会

—決定事項—

- ・文化紹介で行うこと
風揚げ、歌、うらじゃ

・スイーツパーティー候補

きびだんご、麩菓子、かりんとう、フエラムネ、わたばち、果汁グミ、さきいか、とおりもん、せんべえ、
ポン菓子、八つ橋、ねるねるねるね、酢昆布、柿ピー、東京バナナ、じゃがりこ、ポッキー、梅酒

プレゼンテーションテーマ

習慣・マナー、食の歴史、日蒙関係、日本以外のモンゴル国際経済、水について、

もしものときのモンゴル語、経済、モンゴル人について、教育、モンゴルの現状(社会問題など)



日別活動報告

Before

8/7 -Kyoko

8/8 -Bikky

8/9 -Sachi

Mongol Ex

8/10 -Daiki

8/11 -Nattsu Mama

8/12 -Tomo

8/13 -Seiho

8/14 -Fucchan, Sacchan

8/15 -Tsubasa

8/16 -Haruka, Isao

8/17 -Imari

8/18 -Mariko, Maki

8/19 -Shoko, Hiromasa

8/20 -Hikari

After

8/21 -Tessan

8/22 -Kino-pi

8/23 -Bon

8/24 -Shinya

8/25 -Naka

8/26 -Nobu



8/7 written by Kyoko

モンゴル Ex の before として、韓国に行きました。前の日の夜に韓国に着いたばかりで、観光は今日からです！

まずは、泊まっていた明洞から、地下鉄で梨大(イデ)という街へ。韓国の地下鉄は、けっこうわかりやすく乗り換えも困りませんでした。梨大は、近くに梨花女子大という女子大がある学生街なので、おしゃれな洋服・靴・アクセサリーのお店がたくさん並んでいました。値段も手ごろで、セール中の店も多かったので、アフターだったらもっといろいろ買っていたと思います！そして、韓国は、化粧品を買うとたくさんおまけをつけてくれるのですが、明洞よりも梨大のほうが、おまけが豪華でした。服も何枚か一度に買くと、値切ることができました。買い物を済ませた後、お昼には冷麺を食べました。食べていくうちにだんだん辛くなってきて、食べきれなかったです。でも、すごく美味しかったし安かった！その後、電車で東大門へ。ここでは、ファッションビルを見たり、スムージーを飲んで休憩したり、露店(安い！)を見たりと、うろうろしました。そして、疲れてきたので、夕食を食べに明洞へ戻りました。明洞では、焼肉屋を探して、一つの店に入りました。肉がとても美味しかったし、たくさんのつきだしも出てきたので、そのときは満足だったのですが、あとあと考えたら韓国にしてはちょっと料金高かったかも？まあでも、こういうのも経験ですよ。韓国は、本当に日本人観光客が多く、どこに行っても日本人がいました。そして、大体の店員さんは、日本語が話せます。今回の韓国旅行は、買い物メインだったので、次に来たときは、チマチョゴリを着てみたり、韓国の歴史的なところを観光したり、今回食べることができなかった韓国料理を食べてみたいと思いました。

8/8 written by Bikky

モンゴル EX のビフォーで、ゴビ砂漠へ行きました。ウランバートルから飛行機で約 1 時間半。メンバーは、なかくん、のぶくん、私の3人です！

ゴビ砂漠ツアー1か所目は、恐竜の卵の化石が見つかった場所、バザンヤクへ行きました。崖(?)から落ちてしまいそうな程、何もない！そして、日差しがすごい！空気は乾燥していて汗はかかないのに、肌がじりじり。日本では体験できない大自然の中で初っ端からはしゃぎました◎笑

その後昼食兼休憩をはさみ、次のスポットへ。車に揺られること



約2時間！2か所目は、モルツォグ砂丘でした。ここで、ラクダに乗り砂丘周辺を散歩しました。足跡ひとつない砂丘、放牧中のラクダの群れや死んだ動物の骨などを見ることができました。この場所では、宝石や貴金属の鉱石を見つけることができます。



るそうです！

観光スポット最後の3か所目は驚の谷を意味する、ヨーリンアム溪谷へ行きました。溪谷をハイキング気分で進んでいくと、いっぱいいました♥また、ヨーリンアム博物館ではモンゴルに生息する竜の化石を展示してありました。

そして、いよいよ宿泊施設へ。の上から夕焼けを見ました。360度では表せないくらいきれいでした！



野生のナキウサギがム溪谷の近くにあるゴビ動物のはく製や、恐

到着後すぐ、近くの丘見渡せる景色は言葉夕食後に、ツアーガイド

ドをしてくれた大学生の女の子に動物の足首の骨を使うモンゴルのゲームを教えてくださいました。この駒には四面あり、「ラクダ」、「羊」、「馬」、「ヤギ」の4種類の動物を意味していて、この「馬」の面を使って遊ぶ Fast horse race という、「すごろく」のような遊びをしました。ほかにも、100 個近くの駒を使って遊ぶ「Sea turtle」などもあるそうです。

夜、完全に日が落ちた後、外に毛布を引っ張り出して星空観賞をしました。雲ひとつない日だったこともあり、一面星空でした。寒さを忘れる程きれいで、たくさんの流れ星を見ることが出来ました。



ゴビ砂漠は想像していた砂漠のイメージとは違い、短い草がまばらに生えた草原や、湖、溪谷がありました。ゴビ砂漠では自然の美しさと、なかくん & のぶくん に癒されっぱなしで、素敵な思い出になりました！ありがとう♥EX メンバーより一足先にモンゴルを満喫したピフォーになりました。

8/9 written by Sachi

モンゴルに到着して2日目。昨日の旅の疲れがとれないまま、朝食のため8時起床。朝食はビュッフェ形式でパンやサラダなど。

10 時頃からモンゴル人の女の子、マッカがウランバートルを案内してくれることになり、皆でお出かけ。銀行で両替したり、スーパーに行ったり。スーパーは欧米形式だが、中国やら韓国やらロシアやら日本やら様々な国の製品が並び、とてもおもしろい。その後、レストラン(軽食屋さん?)に行ってお昼ご飯！皆それぞれ頼んで、机の上にはボーズ(肉まんみたいなもの)やらチキンやらグーラシュやらマトンのステーキが並ぶ。また辛ラーメンやスパゲティなんてチョイスも。感想は…全体的にマトンくさい。。。これからの食事が不安だ。

そしてホテルに戻ると最終到着メンバー達が、食堂にてお昼ご飯中。なんだか海外で集合したり再会したりって瞬間って毎度いいなって思う。しばらく困らしたのち、部屋に帰ってお昼寝。外は日差しが強く、なかなか体力を消耗していた模様。昼寝している間に一部

メンバーは歩いて 20 分ほどのマーケットに買い出しにいき、行きそびれたのでだんてふ達のお部屋訪問。なかでは楽器の練習会が開かれていた。今回のメンバーは音楽好きな人達が多らしく、ギター・ウクレレ・オカリナ・リコーダーと多種多様。いい音楽につつまれながらまったりまったり。

晩御飯はホテルの諸事情(私たちがホテルの食材を食べつくしたらしく、食材がないらしい)で近くのリッチそうなホテルのレストランへ。なかなか美味しい食事をいただいたのちテムジンホテルを帰り、明日からの草原生活に備えてそうそうに就寝。

8/10 written by Daiki

今日は草原に向かう日。草原の滞在日数は約 1 週間。一体どんなことが起こるのだろうか。どんな出会いがあるのか、どんな空気に触れ、どんな感情を抱くのか。そんなことに胸を膨らませ、起きたのは朝 7 時半。朝食を済ませ、各々の希望が詰まったキャリーケースを手にし、日本人 24 人モンゴル人 8 人、総勢 32 人が乗り込んだバスが出発した。バスの中で団長の慎哉が日本人メンバーを紹介し、モンゴル人のツァツァがモンゴル人メンバーを紹介してくれた。バスを走らせること約 1 時間。首都のウランバートルとは違った風景が広がり、窓の外には牛や馬、遠くの方にはゲルまで見渡せた。さらに走ると辺りは緑色一色。道路もアスファルトから砂利道に変わり、最後は轍に変わった。出発してから 2 時間ほどで目的地の草原に着いた。この日は生憎の天候で雨、しかもめっちゃくちゃ寒い。体感温度は 10℃くらい。とりあえずゲルに入り、昼食を食べた。ご飯は思っていたよりもおいしい。まだ宿泊用のゲルの準備が整っておらず、バスでトランプをしたり、外ではしゃいだりして、夕方まで時間を潰した。夕方になると草原でモンゴルの遊びを皆でやり、夕食を食べた。草原最初の夜、お酒が待っていた。てっぺいがゲルの中心に座り、ウォッカを注ぐ。それを年齢の高い男性から順に太陽周り(時計周り)で一気にショットする。これがモンゴルのお酒の習慣だそう。ウォッカの威力はさすがに強いようで、想像を絶するような悲惨で卑猥な光景がゲルの中に広がっていたそう。詳しくは知らない。その後は、歌を歌ったり、語ったり、外でかすかに見える星を眺めたりした。そんなこなしているうちに草原 1 日目の夜は更けていった。

8/11 written by Nattsu Mama

雨は上がっていて、天気はくもり。私はこの日寒さのせいでみんなが起きるよりも早く起きてしまった。早朝の草原には霧が出ていてとても幻想的だった。モンゴル人メンバーに誘われて丘陵登りに行き、エーデルワイスを見せてもらったり、色んな動物について教えてもらったりした。みんなが起き出して朝食【チョコパイとゆで卵(ノブはゆで卵をおけなかった)と 3 倍に薄めた

紅茶(もはやただの茶色のお湯)】を食べ、今日のイベントである国立公園へ 4 時間かけて移動。道中みんなは疲れがたまっていたのか爆睡していた。10 時出発の予定が 12 時になっていたので、到着したのはもう夕方であった。風景はゲルのある草原とあまり変わらないが、川が流れていて、大きな岩があるのが特徴的であった。お昼ご飯は特大餃子みたいな牛肉の入ったもっちりした揚げパンであった。ここでもきのぴー塩は大活躍！塩は大切な調味料だと改めて実感した。昼食後、男子は川を飛び越えて遊んだり、サッカーしたり、女子はトイレを探す旅へ出た。ゆっくり草原で過ごしたあと、有名なカメ岩を訪れて集合写真を撮った。色とりどりの高山植物にも出会えて写真をいっぱい撮った。そして一同帰路へ。帰りもまた 4 時間かかったので、ゲルに着いた頃にはもう真っ暗。コックさんが用意してくれたあったかい晩御飯のスープ【牛肉とマカロニのみ】を食べ、寒い寒い夜に体を温めることができた。ゲルの中で薪を焚き、明日は晴れることを願いながら就寝した。

8/12 written by Tomo

12 日は一日フリーでした！みんなサッカーやバレーなどのスポーツをしたり、大草原の絵を描いたり、楽器を持参してきた人は皆で同じ曲を練習したり…みんなそれぞれ自由に、草原で好きなだけ遊びました。草原は広々として気持ちよくて、疲れたらその辺にブルーシートを広げて昼寝して…というような感じで、日本では考えられないくらい自由に好きな事をしました。私は運動が苦手で、普段ほとんどスポーツもしませんがこの日は夜までずっと遊んでいました。また、この日はモンゴル人のメンバーにモンゴルの遊びを少し教えてもらいました。たとえば、モンゴルでは大縄飛びで遊ぶときも難しい技に挑戦します。足一本で 10 回飛ぶ、しゃがんで 10 回飛ぶなどなかなか難しかったです、すごく楽しかったです。日本人の男子メンバーたちは、モンゴル相撲を教えてもらっていました。日本の相撲は力のぶつかり合いというイメージですが、モンゴル相撲はどちらかといえばテクニック勝負という感じで、力押しの場面はほとんどありませんでした。そして夜はまた皆で星を見ました。昨日は少し曇っていましたがこの日は空が晴れていたの星が綺麗に見え、本当にたくさんの流れ星を見ることが出来ました。モンゴルの夜は本当に寒くて震えるほどでしたが、それも気にならないほど流れ星は感動的で、みんな夢中で空を見ていました。プログラム初日は雨であまり遊べなかった分、この日は皆モンゴルの自然を満喫することが出来ました。

8/13 written by Seiho

朝から雨。この日の予定は文化紹介、乗馬、シャワーだったはず。ところが実際は、一日中フリータイム。そう、これがモンゴル EX。予定にとらわれずのんびりいきます。

みんなそれぞれ好きなことをして過ごしました。私の一日を綴ります。

朝ご飯はトーストとジャギママ手作りのパンケーキ。トーストには目玉焼き、トマトソース、バター、イチゴジャム、きゅうり、チーズなどいろいろのせて食べました。とてもおいしかったです。

朝食後はゲル掃除。1番きれいなゲルと言わせるために。女の子だからね。(by ツァツァ)
雨がやんでゲルの外に出ると、羊と山羊の群れが間近に。つばさが「メェ〜〜」と言うと「メェ〜〜」と返してくれる山羊。何回もやっていたら、人間と気付いたのか無視されました(笑)

その次は草原サッカー。横は線なし。無限に続きます。体が温まったけど、雨が降ってきたのでゲルに避難。やることがないからお昼寝〜。

目が覚めたらお昼ごはん！！肉じゃがとサラダみたいなの。おいしかったです。

そのあと、私のゲルではツァツァにモンゴルの民族衣装を着せてもらいました。モンゴル人気分になれて楽しかったです。

そして、てっぺいによるトランプ占い。占いの館みたいになっていました。恋愛占いしてもらいました。大富豪もしました。

そのあとはツァツァとお話しながら携帯の写真を見せてもらって、モンゴルについて知れました。モンゴルの冬は本当に寒そうでした。

夜は飲み会。ウオッカたくさん飲んで、歌って踊ってゲームをして一日終了！天気は悪かったけど、みんながいるので本当に楽しい一日になりました。

8/14 written by Fucchan

僕は14日の夜におこった恐ろしい出来事を書こうと思います。その夜はとても冷え込んでいて僕たちはストーブの火を絶やさないように気をつけながら寝る準備をしていました。ゲルの中には男子2ゲルのメンバーであるキノビー、てっさん、ボンちゃん、ヒロマサ、ノブがいたと思います。おしゃべりもそこそこに床につこうとしていたそのとき、突然ゲルの扉が開きました。モンゴルの夜は真っ暗で懐中電灯で照らさないと誰が誰だかわかりません。

ゲルの小さな小さな扉の向こうにたっていたのは大きな大きな体のジャギパパでした。ジャギパパはモンゴル Ex のコーディネーターであるジャギーさんの実の父で何かと僕らの世話を焼いてくれるみんなのお父さんのような人物です。そんな優しいジャギパパなのですが大柄な体にスキンヘッドというルックスでただ黙って立っているだけでも何か物々しい雰囲気がありました。

ジャギパパは何も言わずにゲルの中に入ってきて時折モンゴル語で小さくつぶやきながらストーブの煙突とゲルの天井をかわるがわる見つめていました。

ぼくたちも事態を飲み込めずジャギパパを何も言わずにただただ見つめていました。不安げな僕たちの空気を察したのかお父さんは僕らに向かって一言だけ言い放ちました。

“Danger.”

一瞬空気が止まりました。そしてお父さんはそれだけ言って立ち去っていきました。「え、Danger?」意味が分かりませんでした。でも僕たちは誰が言うでもなく迅速に荷物をまとめ始めました。いつでも逃げ出せるためです。何かはわからない。とにかく僕たちは“Danger”なんだと。しかし1分くらいするとお父さんはナイフを持って戻ってきました。そして絵を描いて何が“Danger”なのか説明を始めました。どうやらストーブの煙突がゲルの天井のビニールに接触していて天井に火が燃え移ってしまう可能性があるということでした。そしてパパはキノピーを軽々持ち上げキノピーとパパの共同作業によってゲルの天井のビニールが切り取られなんとか“Safety”な状況に戻ることができました。

モンゴルの草原で真夜中におこった映画のワンシーンのようなこの時間を僕たちは忘れることはないでしょう。そして誰もきづかないような“Danger”から僕たちを守ってくれたお父さん。くやしいぐらいに男前です。あなたのような男になりたい。

Written by Sacchan

晴れ

今日は昨日 13 日とはガラリと変わって良い天気でした！そしてそして一大イベントが盛りだくさんな1日でもありました。

みんなで朝ご飯を食べたあと、乗馬体験をしました。大好きな馬に乗れて幸せでした。同じ馬でも人間と同じように性格は様々。乗った馬によって優しく穏やかな子、食いしんぼうな子というように違いが表れていて面白かったです。馬に乗って草原を歩くなんで“THE モンゴル”という経験ができました。

お昼ご飯を食べたあとには報告ムービーの撮影会！みんなでゲルから飛び出して草原を走る！走る！みんなで走るのは本当に楽しく、良い思い出にもなりました☆ NFM での報告ムービーがとっても楽しみです(^o^)

その後は少し草原でのほほんと、各自自由に過ごしました。

そして！ついに！待ちに待ったシャワーです！少し離れたツーリストキャンプに行き、シャワーを浴びることができました。水量の関係で女性陣しかシャワーができなかったのは申し訳なかったのですが、本当に気持ちよかったです！日本での普段の生活の中では気づかない「当たり前」が当たり前ではないということ。モンゴルに来てそれに気づけて良かったと思います。

こんな感じで盛りだくさんな1日でしたが、その1日で自然の素晴らしさ、ありがたさを感じることができました。

8/15 written by Tsubasa

晴れ一瞬雨

今日は、いつもと違いました!!なんと、予定があった!!!!!!文化紹介☆ちなみに、いつもは「今日の予定はなしです!」笑。って言っても朝から晩まで文化紹介する訳でもないので、お昼から山登り。これくらいやったら登れるやろ〜と思って行ってみたら、意外ときつい!!!標高高いからか〜っと思いつながりながら頂上へ。景色キレイ!きつと1日中おっても飽きずにおれたわ〜。惜しくも昨日お風呂に入れなかった男の子達が道を歩いているのを山の頂上から発見!とりあえず叫ぶ!!!!その後は、牛の乳しぼりもした。ツァツァはすごく上手に搾っていたけど、私はなかなか上手に搾ることもできず、ただ引っ張った。牛さん、ごめんなさい。ついに、文化紹介の始まり始まり〜。風揚げ、こまなどで遊びました。人生で初めてあんなけ高く風上げることができて、モンゴル人メンバー並にはしゃいだ!6連風が遠すぎて、米粒みたいな大きさになっていて、凄かった!草原で何も風を邪魔するものがないからこんなことができるんやってしみじみ思った。遊んだあとは、うらじゃジャギパパ、コックさんも参加してくれて、みんなで踊った。大人数で踊るうらじゃは、ほんまに楽しい!疲れるけど、やっぱりやめられへん!一方、モンゴル人メンバーの文化紹介では、ツァツァが、モンゴル伝統の踊りを踊ってくれた。民族衣装もわざわざ持ってきてくれて、すごくきれいだった。文化紹介も一通り終わって、今日の予定が終了!みんなでおいしい晩御飯を食べて、今日も楽しかった♪と思っていたら…牛の大群が蛇口の水をペロペロしていましたとさ☆草原に来て、早6日、これくらいはもうただのお笑い話になりました。トイレの替え歌も作成されていて、みんなが日々遅くなっていました。笑

8/16 written by Haruka

いつも通りゆっくり起き 10 時ごろに朝食を済ませる。ジャギさんの活きな提案で草原最終日だから自由に過ごしていいとなった。みんなでぼんちゃんのメガネを探した後、みんなで遊ぼうということになり、ケードロ、キックベース、バレーボールと大草原を駆け回った。モンゴルでは今日の予定は何々です。というような受け身ではなく、自由に自分たちで考えてやることのできたのがよかった。

昼食を済ませたのち、民族衣装をツァツァに着せてもらったりパッキングをしていた。私はお昼を過ぎたころから、草原でしておきたいことが2点ありタイミングをうかがっていた。それは以前山登りをしていたが夜ご飯の時間になり中腹で引き戻したので頂上まで行きたいということとゲス隊でのPRムービーを残したいということであった。2つとも草原でなければできないことだ。後者の願望はメンバー2人が車で出かけていたため、先に山登りを誘うことにした。そうすると、山登りメンバーが3人4人、10人と増えていき最終的にはほぼ全員で行けることになり嬉しかった。遊びっで待っているだけでなく、自分でやろって言えばいくらでも遊ぶことができるんだ

など改めて思った。下山し、後者の願望も無事に叶えることができた。(ムービー見たい人は行ってね♡)

草原生活で、走り回ったり、音楽を奏でたり、絵を描いたり、ピクニックをしたり、踊ったり、歌ったり、満天の星を見たり、夜食食べたり、キャラ崩壊したり、遅くまで喋りあかしたり、飲んだり。こんなに楽しい日々を過ごせたのはいい人たちと出会えたからだなど、思った最終日でした。みんな、ありがとう。

Written by Isao

なんだかんだで起床時間が毎日遅くなってきていて、この日起きたのは10時くらいでした。朝ごはんはいつもの目玉焼きとパンでしたが、最後の日だったので残った紅茶のお茶葉がもらえて嬉しかったです。そのあとはメンバー紹介のムービーを撮ったり、ボンさんにもらったシャボン液でシャボン玉を作ったりいろいろとしていました。メンバー紹介の時みんなゲルの上に乗ってたので、ゲルの骨が少しやばかったです(笑)確か江口さんの提案で僕はゲルの扉から飛び出して斧を振り回してました。

その後は2時頃のお昼ご飯の時間までどろけいやキックベース、バレーボールをやりました。僕は球技は大体苦手でしたが、やってみるととても楽しくて良かったです。大樹さんがバレーめっちゃ上手でした。ジャンプしながらサーブ打つのができて良かったです。その後夕方にはみんなで山に登りに行きました。登っているときに思ったんですが、モンゴルの草しか生えていない山は距離感がつかみにくく、見た目よりもとても遠かったです。山頂はとても見晴らしが良かったです

晩はゲルでモンゴルのウォッカを飲みながらってっぺいと遅くまで話してました。前日のスイパの疲れも少し残っていましたが、いろんなことをした草原での最後の日でした。

8/17 written by Imari

ゲル最終日の朝7時。目が覚めて起きると、ストーブが入っていた。こんな時間に入っているのはあまりなかったのでなぜかと外を出ると、ものすごい強風。EX 中で一番強いんじゃないと感じるくらいの風だった。

もう少しだけ寝て、起きると食事。いつもどおり朝はパンと目玉焼き。でも、これも今日で最後になると思うと、名残惜しく感じる。

朝食が終わると、各自ゲルの掃除と最終のパッキング。それにしてもいろんなものが最後の最後になって発見される。ぼんの帽子も最後になって見つかった。ただし、とうとう彼の眼鏡は見つからなかったのだが・・・(´ω´)

そんなこんなあっていよいよ出発の時。ゲルともこれでお別れ。でも、その前にみんなで草

原を掃除しました。来る前より美しくという言葉があるけど、まさにそれを実践したのかな。そして、今度こそバスに乗り込む…の前に、写真撮影をしました。まだ、EX 終わるわけじゃないのにまるで終わったような空気(;^ω^)でも、名残惜しいのは間違いないです。そして、草原を少しずつ離れてウランバートルへ。僕は都会の喧騒に戻っていくのでした…

さて、ウランバートルに戻るとモンゴル人学生の子の家に各自ホームステイ。俺・てっさん・中はてっぺいの家に泊まりました w てっぺいの車に乗り込んでからは彼の草原とは違う一面を知ることができました。途中モンゴルのテレビ局の前に立ち寄り、てっぺいの友達(仕事仲間?)に会いました。ここでの顔はまさに仕事の顔で、顔は真剣。それでもそのフレンドリーさは忘れていない。何言ってるかは分からないけど、違う一面が見れてよかったです。そして、家に着いて、バスではないが乗合タクシーみたいなのに乗って再び街へ。てっぺいは仕事ということで後で合流する約束をし、街にて男3人+しゅん、まりこ、とととパブで飲み。場所はてっぺいの仕事場の隣 w まあおいしく酒をいただき、いい気分てみんな戻ったのでした…w

それにしても、なぜかウランバートルにあるてっぺいの家からも星が一面に見えてびっくりしました w モンゴル、すげえ！ w

8/18 written by Mariko

18日は、いくつかのホームステイが合流してモンゴルの遊園地に行きました。日本にもあるようなアトラクションがたくさんあったのですが、1つ決して日本では体験できない乗り物に乗ることができました。名前は忘れてしまいましたが、特徴をあげるのであればまずベルトがゆるゆるで意味をなしていない事、鉄のわくで覆われているため乗り物が空中で凄い勢いで回転しても落ちることはないが全力で体を支えなければあざだらけになるという事、あまりの衝撃で笑い始めると呼吸しづらくなるという事です。まるでただ怖かったかのように書きましたが実際は正反対で凄く楽しかったです。スリリングなものが好きであればどのアトラクションよりも楽しめると思います。

遊園地の後は皆でツァツァの家に集まってカレーを作って食べたり、恒例のウォッカで飲み会をしました。数日ぶりに会えたメンバーもいたのでとても幸せな夜でした。

Written by Maki

10 時くらいからホスト先のおじいちゃんの別荘に行く予定やったけど、モンゴリアンタイムのおかげで11 時過ぎて出発！(笑)車で1 時間くらいで別荘地に到着！別荘の持ち主であるおじいちゃんは元軍人で、褒賞として別荘を国から頂いたと言ってて、日本でそんなことしたら問題になるんじゃないかなーと話を聞きながら、旧社会主義国の実態を少しだけ窺い知ることが出来た気がした。別荘でホスト先のお母さんがボーズ(小龍包みたいなもの)を作ってくだ

さり、ホストシスターのノミンちゃんとおじいちゃん、ノミンちゃんのいとこのツツゲとみんなで食べた。匂いのきつい食べ物が苦手なので、ボーズをあまり食べることができず、お母さんに申し訳ない気持ちでいっぱいやった(´_ゝ´)

それから別荘の周辺を探索したり片付けを手伝った後、おじいちゃん&ツツゲとバイバイして市内に戻ってみんなと合流@遊園地！みんながぐるぐるんなるアトラクション乗り終わってくらいに着いて、中がもう一回乗りたい！って言うので一緒に乗った。…死ぬかと思った^o^ いやいやあんなちゃっちいベルトで体固定できる訳ないやん。最終的に叫び疲れてグツリ…。その後ビリヤードをやったんやけど、ルールわからんし体力的にダルいしでフードコートで中とのぶ、ともさん、せいほさん、いさおとお喋り(●^o^●)のぶはお風呂に入っても相変わらずスパシーやったww グダグダ喋ってそろそろ出ようかーてなって、タクシー拾ってツァツァの家に向かった…はいいけど、渋滞が凄まじいことになって、かなり時間がかかった(´_ゝ´)そんなこんなでツァツァの家の近くのスーパーで降ろしてもらって、てっさん達と合流してスーパーで足りないお酒とか買い出し！んでんでツァツァの家に行って、みんなでカレー作ろー！てなってたんだけど、まさかの停電で作業進まずww みんな懐中電灯持ってたから、それで手元を照らしつつ作業して、ヒマな人はだんてふとモンゴルメンバーにメッセージカードをこっそり書いてた。そうこうしてたら電気が復活して作業再開！カレーは無事に完成して、みんなでいただきます(*ω*) 普段食べるカレーよりおいしかった！そんなこんなでカレーを食べ終わり、飲み会開始！最初はチョコレートリキュール？か何かで作ったお酒飲んで、あとはチングスウォッカをひたすら飲むというお決まりのパターン(笑) みんなで飲んで騒いで夜は更けていった…(^▽^)

8/19 written by Shoko

前日ツァツァのお家でホームパーティをして遅くまで飲んでいたので、遅めの起床でした。お昼頃、まさきと支度をしているとジャギーさんがやってきて、タクシーに乗り込み、団長とひろまさと合流。一階にヴィトンが入っているセントラルタワー？(多分)のなかはいっている、あかまるというラーメン屋さんで昼食を食べました。ラーメンとギョウザを食べたのですが、久しぶりの日本風の味で大満足でした。その後、デパートにいったちよびりショッピングをし、歩いて劇場に向かいました。みんな farewell party のためにドレスアップして来ていてすごく素敵でした。劇場でのファッションショーは本当に美男美女のモデルさんたちが、とてもファッショナブルにデザインされたモンゴルの民族衣装をきて出てきて、その美しさにうっとり* 目が離せませんでした。モデルさんがランウェイを歩くだけではなく、楽器演奏や身体が柔軟すぎる2人の少女によるパフォーマンスなど、見応えのあるものでした。その後はカラオケに移動し、みんなでウォッカを飲みながら日本の歌とモンゴルの歌で盛り上がりました。もちろん cherry はみんなで歌い、改めて私たちモンゴル Ex2012 のテーマソングのような気がして嬉しかったと同時に、数

日前までの草原での生活がもっともっと昔のここのように感じました。翌日ここを立つことが信じられず、モンゴル Ex のメンバーとお別れだなんて実感が湧きませんでした。

Written by Hiromasa

この日はモンゴルEx最終日です。僕と団長は 11 時に来ると言っていたジャギさんをホームステイ先で待ちます。しかし、モンゴルでは安定の時間感覚で結局迎えが来たのは 13 時でした。まき、しょうこと合流し、お昼ご飯にとんこつラーメンを食べに行きました。なぜか普通のラーメンよりもチャーシューメンの方が値段が安かったです。その後、買い物をしにデパートに行きました。ちなみに僕はそこで煙草を1カートン購入しました。デパートの男子トイレには、1つトイレトペーパーがなく困ったものでした。ちなみに団長はレシートを使ったそうです。デパートを出て、メンバー全員と合流し、演劇のようなものを観に行きました。それから、フェアウェルパーティーとして全員でカラオケに行きました。いつものようにウォッカを飲み、歌い、踊りました。これが最後の夜かと思うととても悲しい思いでした。団長へのサプライズをは感動的でした。この日のドレスアップしたつばさんは一段とかわいかったです。そして、まきとデジカメを失くしたまりこがつぶれ、この日は幕を閉じました。

8/20 written by Hikari

さよならパーティーから一夜明けて、みんな疲れていたのか、ゆっくり起床しました。朝ごはんは、マッカのお家ではもうお馴染みのパンとチーズと紅茶です。お昼ごはんはツォイワンと呼ばれる、焼きうどんのようなものをマッカが作ってくれました。ごはんを食べてから、マッカがスーパーに行くというので、お土産を買いたかった私と京子ちゃんについて行きました。京子ちゃんがお土産にウォッカを買おうとしたところ、1日と20日はルールでお酒は販売禁止になっているらしく、中々購入することができませんでした。しかし、3件目で購入することができました。よくわからないルールです。お家に戻り、アイスを食べていたところ、マッカがにやにやして私達の部屋に入ってきて、お土産とメッセージカードをくれました。お別れの実感がこの時にわいて、嬉しいのと同時に、さみしくて涙が止まりませんでした。私のホームステイ先がマッカのお家で本当によかったです。ママと甥っ子、姪っ子に別れを告げて、出かけました。別れ際に、マッカの甥っ子が、「ありがとう。」「バイバイ。」と日本語で言ってくれたのがとても嬉しかったです。車に乗っているときに、マッカのおじいちゃんが倒れたとの知らせがありました。ひどい交通渋滞にひっかかっている、すぐに駆けつけることができず、マッカは泣いてしまい、私達もパニック状態でした。けれど、てっぺいと中とのぶのおかげで、なんとかマッカはおじいちゃんのもとへ向かい、私達は飛行機に乗ることができました。私は、ずっと、ずっとマッカのことが心配で、私が心配しても何にもならないのですが、心配で、そっちに気を取られ、空港でみんなと

別れる際も一切涙がでませんでした。でも、最後にアリとママの顔、のぶと中の顔をみたら、涙が止まらなくて、泣いてしまいました。色々な事があって、色々な気持ちの中、別れを迎えた Ex 最終日でした。飛行機から見えた、ウランバートルの夜景がとてもきれいでした。

8/21 written by Tessan

「故宮」「シルクストリート」「北京ダック」

私はボン、きのぴー、慎哉、ふっちゃんと男 5 人での北京アフターの一員だった。前日の 20 日には既に北京入りを済ませ、翌日からの楽しみのため英気を養っていた。

この日は朝、ようやく後発組のきのぴー、慎哉、ふっちゃんとホテルで合流した。なぜなら、前日の晩は私とボンが先に力尽きてしまっていたからである。ホテル内のレストラン(ビュッフェ形式)で安定の 3 皿を平らげ、いざ北京の街へ繰り出すことに。

まずは世界遺産にも登録されている故宮へ。かつての皇帝が住んだとされるこの宮殿は、なんといってもその規模が凄まじく大きい。地球の歩き方には 2~6 時間コースと記載されているほどであったが、我々は 1 時間で突破した。あまりにも同じ光景が続いたので飽きてしまったからである。

その後はこの日のメインイベントである、シルクストリートという商業ビルに向かった。ビル内は服、靴、カバンなどファッションに関する店舗が所狭しと並んでおり、私たちはここでそれぞれテーマを決めて一式揃えることになっていたのだ。この醍醐味はなんといっても値切り交渉。初めは 1000 元と言われた品でも最終的に 100 元以下になることなんてザラだった。90% オフって……。最初高すぎやろとツッコミたくなった、というか日本語で店員にツッコんだ。店員の客引きが凄まじく、道を歩くだけで両サイドの店から商品で身体をトントン叩かれ、カタコトの日本語で語りかけてくる。時にはスペイン語なども話していたのが驚きだった。

各自好みのショッピングを終え、一路北京ダックを食しに行くことに。ええ感じのレストランに入って好き放題注文したのだが、どれもこれも味が非常に薄く味覚がバカになったのかと勘違いしたほどであった。念願のペキンダックは目の前で切り落とされ、絶妙なタレの味も相まって、とても美味しくいただくことができました。

満腹になった一行は、20~30 分ほど歩いてホテルへ帰りつき、その日は夜中 3 時ごろまで無言で大富豪をしながら夜が更けていった。大富豪の真剣さやヴァイ。。。

明日は万里の長城。晴れるとよいなあ。

8/22 written by Kino-pi

モンゴル Ex アフター北京 3 日目。今日の目的地は万里の長城。万里の長城へは北京北

駅から高速列車で行けるらしいという情報を元に目的地へ向かうため北京北駅へ地下鉄で移動。北京北駅に到着。ここで疑問が。切符はどこでかうのか。

全員「。。。。」

分からないのでとりあえず英語が通じそうな駅員に聞いてみる。英語が通じそうな駅員にもやはり英語は通じなかったがなんとなく場所は分かったため移動。辿り着いた先は駅構内の高速列車チケット売り場。しかしここでまた疑問が。窓口は 8 つ。さてどの窓口が万里の長城行きのチケットを販売するものなのか。

全員「。。。。」

分からないため表示される中国文字を必死に解読し一番右の窓口へ。どうやら 30 分後にチケットの販売が始まるらしい雰囲気。文字を見つけ待機。30 分後。チケットの販売がスタート。予想は的中。しかし人の波の動きを予想していなかった。5 人でフォーメーションを組み横から人が入ってくるのを阻止。そして無事にチケット購入。こうして万里の長城への旅が始まったのであった。

現地に到着しロープウェイ乗り場へ。徒歩で登ることも出来たが私たち五人にその選択肢は無かった。およそ 1 時間並び無事にロープウェイ乗車。扉が完全に閉まりきっていないことは気にせず頂上到着を待つ。頂上に到着しロープウェイをおり通用口を通過してついに万里の長城へ。

全員「。。。。」

どこまでも続く石の壁。龍のようなうねりをみせ、山の稜線をつたうそのさまはさすが世界遺産万里の長城。思ったよりも急で、思ったよりも高い壁。はしゃぐしかない。登ってくる人達の表情を見て徒歩で登ってこなかったことがいかに正しい選択だったのかを噛み締めながら長城を徒歩で降りていく。

帰りの車内。夕日をのぞみながらトランプをして時間を過ごす。北京北駅に到着。

夜ご飯は吉野家へ。

全員「。。。。」

食欲を満たした我々は最高の時間を過ごした一日を振り返り私たち 5 人は大富豪になったような心の充実感を味わったのであった。

8/23 written by Bon

朝一番、前日の万里の長城の疲れをひきずりながらもてっさんに無理やり起こされ起床(毎日)そしてホテルロビーにて別室のふっちゃん、きのぴー、しんやと合流！ちなみに別室のほうでもしんやがきのぴーに毎日たたき起こされているらしい。この日の午前中はオリンピック公園

(北京オリンピック跡地)に向かった、駅を出てすぐにいたなぞのミニーの気ぐるみが異様に怖かったしかも上はきぐるみ下はジーパンだった。オリンピック公園はさすがに大きかったが建物以外に特にみるものもなかったので終了、このへんから自分とてっさんは体調不良気味に……。オナカターイ がなんとか回復！ 午後は北京の若者も多いおしゃれストリート(名前忘れた)へ！ その付近の駅を出るともうすでに駅前にはエキセントリックな服装の男女がたむろしていた、この辺から元気が急にでてきたのをよくおぼえている。おしゃれストリートは日本で言うと神戸や上野？みたいなかんじで落ち着いた雰囲気のおしゃれな店が多かった印象、みんなで行こうとしていた日本料理のお店は大人気のため入れなかった。クヤシーしかし代わりにいったお店は雰囲気もよくwifiもあったのでまあよしー！その後各自散策ここでオカリナ屋さんを見発見！試奏ができるというのでつじあやのの「風になる」を吹かせてもらった、すると店長さんも一緒に吹いてくれてところどころハモリなどをくわえてくれ、一曲終わるころには意気投合していた。結局オカリナをそこで二つ購入 & 近くの店でお土産も購入した。正直個々楽しすぎたのでまたいきたい。GOGOショッピング！ちなみにえぐっさんは皮製品、ふっちゃんはいかい付箋、きのびーしんやお茶っばなどを購入していた。この後にバスにのりさらに大きなアウトレットにいったシルクストリートにリベンジ！しかし失敗＞＜ タご飯はやむちゃ系の中華！うまし！てっさんも復調し尋常じゃないほどぐってた。そして最後の夜、前日のペナルティによりはてしないものボケ地獄の沼に沈んでいった……まじつらたん 完

8/24 written by Shinya

僕たちは北京を旅立とうとしている。

朝起きるときには木下に様々な嫌がらせとも言えそうな方法で起こされ、少し遅めの朝食をとった。

今日もホテルのお姉さんたちは可愛い。

身支度を済ませタクシーに乗ったら、タクシードライバーの王さんはびっくりするほどの親日ドライバーであることが判明。

見たこともない昔の日本ドラマの音楽をリピートしていた。彼なりにぼくらを気遣ってくれたのだろうか。

タクシーの中で僕はこのモンゴル Ex に思いを馳せていた。

いろんなことがあった。みんなの日記を読むのが楽しみだなあ。

早く日本に帰りたような、まだまだ北京にいたような不思議な感覚。

ここから家につくまでは本当に一瞬だった。

関空に到着した時のぼんちゃんのテンションの高さを除けば何も特筆することはない。

以上。僕のモンゴル Ex はこの日終えた。最高の思い出を与えてくれたモンゴルの大草原に感謝。

8/25 written by Naka

朝目が覚めると時計は 11 時を指していた。目覚ましのセットは 9 時半にしていたはず。完全なる寝坊である。唯一北京で一日中遊べる日であり、前日からどこへ行くのかということ相方と綿密に決めておいたはずなのに、二人とも、アラームに気づかなかったのは誤算だった。しかし、前日に朝の 3 時までひたすら、宿に置いてあったドラゴンボールを読んでいたのだから致し方ないところもある。気を取り直して、とりあえず最も行きたかった万里の長城へと向かうことにした。監獄のような宿を出て、地下鉄へと向かう。初めて乗る、北京での地下鉄。しかし自動券売機によって、言語が通じなくとも目的地名だけ知っていれば快適に乗ることができた。電車は非常に混み合っていて、汗臭い。二度の乗り換えを済まし、北京北駅へと到着。いざ着いたはいいものの、万里の長城へと向かう鉄道への乗り方が分からない。駅周辺をうろちょろし、切符売り場を探すものの当然表示は漢字ばかりでさっぱり読めない。肝心なことが書かれていない「地球の歩き方」に怒りを覚えながら、道行く人に英語で尋ねてみる。しかしこっちの殺気が伝わったのか、完全なる無視である。炎天下の中アスファルトの上を歩き回ったこともあり、非常に疲れたので駅内のマクドナルドにて少し休憩。そこで相談した結果、万里の長城を諦めることに。これまでの時間を返してほしい。切実に。気を取り直して、次に向かうは天安門。当時日本人デモが盛んだったこともあり、広場で行われていないかという一抹の期待を抱いて再び地下鉄に乗り込む。危険を承知とはいえ、この目でそのあり様を見ておきたかったのである。平日にもかかわらず異様に混み合った列車内でイライラしながらも、駅に到着。そして駅から少し離れた広場へ。しかし、いざ着いてみると、何もない。デモもなければ、大した建物もない。毛沢東の顔があるだけである。景観のみでいうならば個人的にはモンゴルでいった、スフバートル広場の方が好みである。しかし、この広場には大きな歴史の重みがあった。この時、初めて歴史を勉強してよかったと思うことができた。観光客の多さにげんなりはしたが。さて、いざ門をくぐるとそこは別世界。華やかかつ僕個人が

抱いていた「中国」のイメージと見事に合致する建物が並ぶ。あまりの長さに途中から飽きてしまったことは否定できないが、それでも十分に楽しめた。特に一番奥にある、丘の上はぜひ登って欲しい。絶景である。しかし、この景色の素晴らしさは伝えきれないので割愛。さて、次にどこに行くか迷った結果、名前の良く分からない川へ行くことへ。それも結構な距離を、散歩もかねてあるくこととした。途中、怪しげなおっさんがたむろしているスラム街を通ったり、見知らぬ人の結婚式を傍目に眺めたり、横を通る人力車をにらみながらも目的地へ着く。この川は有名どころらしく(名前すら聞いたことがなかったが)、川沿いにバーや屋台が並んでいて、観光客も多く見かけた。そこで屋台でヤシの木のジュースを購入。貧乏旅行だったこともあり、居並ぶ品物からの誘惑に耐えた。しかし、ようやく出口に到達したと思った瞬間、その手前の屋台でたこ焼きを焼いていたお姉さんと目が合ってしまった。しかも超絶美人。相方と目配せをし、何の躊躇もなくたこ焼きを 3 セット買う。このことは今でも後悔している。そこからどこへ行くあてもなく、ひたすら散歩。明らかに観光向けではない、怪しい通りをひたすら歩いた。昭和の日本を思わせる街並みであった。夜になり、相当危なかっただろうに、よく何事もなかったものである。そして、適当に目についた地下鉄に乗って、今度はオリンピック広場へ。ここからはスペースの都合上割愛。

8/26 written by Nobu

この日は僕にとっての今回の旅の最終日でした。

前日に中さんと二人で北京を歩き周り、泊まっていた宿に帰ってきた時にはもう深夜 0 時をまわっていました。でも空港に行くためのタクシーを呼んでいたのが朝の 4 時だったので、一度寝たらもう起きられず、帰れないなと思ったので朝まで宿屋にあったドラゴンボールを読んできました。

そういうわけで無事に朝まで起きてタクシーに乗ることができて、そのタクシーの運転手さんが 140km まで速度を出すような人でしたが無事に空港に到着することができました。それから上海行きの便に乗り便のなかでは熟睡していて、飛行機が離陸する瞬間も着陸する瞬間も見ずにあっという間に上海空港についていました。

上海に到着してからは乗り継ぎまで約九時間も時間が空いていたけれど、僕も中さんも疲れが溜まっていて上海を周ろうなんていう気力もなく、六時間くらいは空港で寝て過ごしました。特に僕は足を引きずりながら空港を歩いていたので変な目で見られていたと思います。

そして日がちょうど沈みかけている時に、飛行機は上海空港を出発しました。帰りの飛行機の中でも中さんはほぼ寝ていましたが、僕は逆にずっと起きていて今回の旅のことを思い出したり、撮った写真を眺めたりしていました。僕は今回初めて海外に行き、お金を落としたり体調もちょっとくずしたり、いろんなトラブルがあった。

でも、そんなことも含めても今回の旅は楽しいことばかりで、いろんな経験もできて、いろんな

仲間もできて、絶対に後悔しないような旅になった。そんなことを考えながら帰りました。そのあと無事に関西空港に着き、二十日間いっしょにいた中さんとも別れて帰宅しました。

以上で日別活動報告を終わります。特に何もしていなかった1日ですが、今回の旅を振り返ることもできたのでよかったと思います。



フリーテーマエッセイ

「日本とモンゴルの生活と価値観」

村里 早智

モンゴルのウランバートル市内は建設ラッシュのようだ。5分車に乗れば、工事現場に3個出会うと言っても過言ではないほどで、道端に大きな大きな穴があるなんてことも珍しくない。一方で道路はガタガタ。ドライバー達は穴を器用に避けて運転する。雨が降れば、でっかい湖が道端に登場する。ウランバートル市内は資本主義の中でまだまだ発達段階にあるのだ。そしてモンゴルが目指す姿はどんなもの、どんな国なのだろうか。

スーパーに行けばロシア・韓国・中国・日本といった各国の食材やパッケージが並ぶ。文字はキリル文字(ロシア語のアルファベット)でスーパーの形態も欧米式。一方でマーケットに行けば、ああ発展途上のアジアの国なんだなと思われる光景が広がる。

海外に行くたびに思うことは、本当に日本の文化と似通った国は少ないということ。自分が日本人という目線で見ているからかもしれない。しかし欧米の国々には異なる文化ももちろんあるものの、生活スタイルにはやはり日本にはない共通したものが見受けられる気がする。もちろん該当国からしてみれば、全然異なると言いたくなるだろうし、欧米人からしたら韓国も中国も同じじゃないかと思うだろう。なぜ日本の生活形態はこんなにも独自の発展を遂げたのだろうかという疑問が湧いてくる。

そして生活に対する価値観も同様に異なる。ウランバートル市内では常に渋滞が目につくしあちこちでクラクションが鳴る。乾燥のため、空気は若干かすんでいる。そんな騒がしいウランバートルを嫌って、近郊の片田舎に移り住んだり、週末や休暇の度に田舎の大自然に遊びに行く人が多いようだ。そして若者たちの娯楽はカラオケやクラブ・ディスコでクラブ曲にも精通している。時間に追われた観光やダンスの苦手な日本人とはやはり異なるようだ。しかし、日本とモンゴルに似通ったものもある。お客さんをもてなす心だ。お店のサービスのことではない。一対一で向かい合った時、相手を喜ばせてあげたい、そんな優しい心づかいがモンゴル人メンバーから伝わってくる。そして、モンゴルの大自然のように広い心を持った人が多いような気がする。

そんなアジアとヨーロッパの文化が混ざり合ったモンゴルが数十年後にどんな姿へなっていくのか、また自分の目で確かめに行きたい。

フリーテーマエッセイ

相馬 慎哉

初日雨でテンションが下がり、追い打ちをかけるように二日後に体調を崩した。

しかしそれを乗り越えた後は最高だった。天気も回復し、満天の星空を見ることも出来た。

大阪では味わえない様々なものを味わった。ホームステイでは元国連職員であるホストファミリーの貴重な話を聞くことも出来た。ウランバートルでもジャギパパは黄色のノースリーブだった。

楽しかった。この言葉だけでは言い表せない。

きっといつの日かあの大草原に戻りたい。

何もない幸せ

藤野 大樹

僕は大学生になってからずっとモンゴルに行きたいと思っていた。その夢が最後の学生生活で叶って本当に良かったと心から思える。特に草原で送った1週間のモンゴル人学生との共同生活は一生忘れられない。ビニールシートを敷いて満点の星空を皆で眺めたこと、ギターに合わせて皆で歌を歌ったこと、寒くなったらウォッカを飲んで体を温めたこと、これらすべてが日本ではできない貴重な思い出となった。

草原での生活を一言で現すと「何もない幸せ」だと思う。あるのは四方に広がる大草原と人だけ。自然は人に癒しを与え、開放的にさせる。そこに個性豊かな人々が合わさることによって楽しさが生まれ、喜びに変わる。また「時間」という感覚まで忘れてしまうこともある。ゲルの周りが騒がしくなったら目覚め、お腹が空いたらご飯を食べ、日が暮れ出すと「そろそろ8時かな?」と思う。日本では数分単位でスケジュールを組み、行動することがあることを考えると、草原での生活は本当に信じられない。

そんな贅沢な時間をこのメンバーで過ごせたことに心から感謝したい。

コミュニケーション

横井 星帆

EXといえば、国際交流。モンゴル EXに参加したいと思った理由のひとつが、モンゴル人と交流してみたいという気持ちでした。日本語を学んでいるモンゴル人と交流。日本語が流暢な人もいれば、あまり話せない人もいました。私のホームステイ先のモンゴルメンバーは、日本語があまり話せず、英語はもっと分からないという方でした。私にとって、英語が通じない国際交流は初めてだったかもしれません。日本語で会話をしていて、通じないことがあっても英語で説明することはできない。ホームステイ中は、草原で過ごしていたときのように通訳してくれるモンゴルメンバーもいない。別の日本語で言い換えるか、ジェスチャーか指さし会話帳か絵を書いて伝えるしかありません。ひとつひとつのコミュニケーションに時間はかかり、時には通じないこともありましたが、全然辛くありませんでした。なぜなら、そのモンゴルメンバーも家族の方々も常に笑顔で接してくれたからです。私は通じないもどかしさから困った顔になっていたこともあったのに対して、ホームステイ先の家族は、気にせず明るい笑顔で接してくれたので、私も自然と笑顔で楽しく過ごすことができました。

ホームステイ先にはそのモンゴルメンバーの従姉妹(小学生ふたり、中学生ひとり)がいました。その子供たちは英語が少し話しましたが、初めは恥ずかしがって写真を撮らせてくれませんでした。もっと仲良くなりたいと思い、お菓子やお土産を渡したり、持ってきた折り紙や万華鏡で遊んだりすることにしました。一緒に遊んでいるうちに徐々に打ち解け、遊び終わったころには写真を撮ってくれ、手紙までもらうことができました。手紙には私のことを『sister』と書いてあり、本当に嬉しい気持ちになりました。今でもFacebookで中学生の子と連絡を取り合っています。コミュニケーションにおいて、言語はとても大切なツールですが、1番大切なのは笑顔と『相手ともっと仲良くなりたいという気持ち』だと思いました。このモンゴル EXで、このことが再確認でき、本当に良かったです。今後もこの気持ちを忘れず、多くの人と交流したいです。

モンゴル Exに参加して

新見 京子

モンゴル Exに参加しようと思ったきっかけは、ゲルが少なくなってきていて、遊牧民も減少しているということを聞いたからでした。一度、大草原の中のゲルを、そしてそこに住む遊牧民を見たい、そして自分もゲルに泊まって寝泊まりしてみたい、と思った私は参加することに決めました。最初は、ごはんが口に合うかということや、体調を崩さないかなど不安でいっぱいでしたが、この、モンゴルでの10日間はとても楽しく過ごすことができました。モンゴル人メンバーは、

初日から最後までずっと私たち日本人メンバーを気遣ってくれていたし、とても親切にしてくれました。一番予想外だったのが、雨の日が多くて寒かったということ。夜は寒いけど、昼間は暖かいと聞いていたので、びっくりしました。モンゴルでもこの時期にここまで寒いのは、めずらしいそうです。草原での生活は、ゆっくりとしたリズムでのびのびと過ごすことができたとともに、日本ではなかなか経験できないことばかりで、毎日が新鮮でした。大量のバッタや虫、虫よけが効かなかったこと、自分たちで掘った青空トイレ、満天の星、たくさんの流れ星、なかなか難しい火起こし、チンギスウォッカ、最初は怖かったけど慣れたら楽しかった乗馬、牛にトイレと水道と風を破壊される、モンゴルのゲーム、山からの景色、などなど、書き出したらきりがないくらい数えきれない思い出を作ることができました。とくに星空の下で、みんなで輪になって歌を歌いながら流れ星を探したことは一生の思い出です。草原で誕生日を迎えるという素敵な経験もできました。今回、一緒に参加した日本人メンバー・モンゴル人メンバーみんな大好きです。モンゴル Ex に参加して本当に良かったと心から思います。

モンゴルの街の様子について

藤村 功

今回のモンゴル EX では、最初と最後の6日間首都ウランバートルに滞在していました。そのときにモンゴルの町の中で感じたことを書いていきたいと思います。

まずはじめに、僕はモンゴルの物価は安いという先入観を持ってましたが、ペットボトル一本で90円程度と、思ったほどは日本と変わらなかったです。あとカシミヤのマフラーが5万トゥグルクして高いなと思いましたが、良く考えてみると日本円で3000円程度なのでそうでもなかったです。

あと町全体の印象としては、高層ビルが意外と少なかったです。これは EX 前のテムジンホテルでは気付きましたが、ホームステイ先のトゥギの家が町の端で町並みが見渡せる場所にあったためはっきり気付きました。そこからはカラフルな屋根の家がたくさん並んでいたり、ライトアップされたタワーが見えたりしてとても見晴らしが良かったです。もう一ヶ所町の反対側にも見晴らしのいい観光スポットがあって、そこからみると、町から一歩外に出ると山と川がある、という印象でした。

町で一番印象に残った場所はウランバートルの大きな市場です。ゲルで必須の防寒具を忘れてしまったため榮口さんと服などを売っている市場に行きましたが、とても広く多様なものが売られていてとても印象深かったです。

出会い

石村 祥

今回のモンゴル Ex.に参加して1番感じたこと、それは人の温かさ。私はこの Ex 期間中にたくさんの人に出会いました。日本人メンバー、モンゴルメンバー、ホストファミリー、現地の人々。日本人メンバーには本当にお世話になりました。優しくって、頼りになる素敵な先輩方、面白くてかわいい後輩たち、いつでも笑いあって、支えてくれた同回生。この Ex で始めて出会った方もたくさんいたけれど、それが嘘のように仲良くなれたことが嬉しかったです。このメンバーでモンゴルに行けたことに感謝しています。

モンゴル人メンバーはどの子もみんな私たちを楽しませてくれることを最優先に考えてくれていたなと感じています。声をかけてくれたり、草原での生活を助けてくれたり。言葉は通じづらくても、一緒にいた時間は短くても仲良く、信頼できる間柄になれたと思います。モンゴルで私たちが不自由無く過ごせたのもモンゴル人メンバーがいてくれたからこそだと感謝し、これからもずっと大切な仲間として繋がっていたいと思います。

ホームステイではアリの家にステイさせてもらいました。アリの家族はお父さん、お母さん、妹、アリの4人家族です。言葉もまったく通じない日本人が3人も突然生活の中に入ってきたというのに誰一人嫌な顔せず、温かく迎え入れてくれました。お別れの前日お父さんが「国籍や人種が違って同じ人間だから、繋がってられるんだ。これからもずっと連絡をとりあっていよう」と言ってくれたこと「君たちのモンゴルのお父さんだよ」と言ってくれたことが本当に嬉しかったです。モンゴル Ex.に参加して新しい家族ができたことは何よりの幸せです。

この Ex に参加してたくさんの人と出会い、たくさん笑って、泣いて、たくさん感動して、驚いて。その一つひとつが私を成長させてくれたし、人と出会うことがこんなにも幸せな気持ちにさせてくれるんだということに気づかせてくれました。日本でいつもと同じ生活を過ごしていたら忘れてしまうことに改めて気づけてよかったと感じています。いろんな感情を共有できたこと、そして何よりモンゴルという地で出会えたことを心から感謝しています。皆さんありがとうございました。

フリーテーマエッセイ

奥迫 翔子

そもそも、私がモンゴル Ex.に参加することになったのは、私が小学生くらいのとき、教科書で初めてゲルをみて世界にはこういう家に住んでいるのか、行ってみたい。と思って以来ずっと、なぜかモンゴルが気になっていたからだった。だから、モンゴルに到着して民族衣装を着てい

るモンゴル人を目にしたり、外に出てモンゴル独特の空気を感じたときには、今まで感じたことのない感動があった。なにより、モンゴルの大草原にみえるゲルをみたときには本当に嬉しかった。死ぬまでにやってみたいことの 하나가叶ったからだ。

今となっては、本当にモンゴルに行ってきたと心底思っているのだが、出発前は、衛生面や自分が環境に適応できるか、自然での生活に順応できるのかなどの不安でいっぱいだった。正直、草原での生活は自分が想像していたものと大きな違いはなく、逆に自分がどこまで適応できるか試せる良い機会になったと思っているし、人間、どんな環境であっても飛び込んでしまえば何とかなるものだと思身を持って学ぶことができた。

私は東京支部で、参加者にはまりこしか良く知っている人がおらず、他の支部のメンバーやモンゴル人メンバーと合流して、どうなるか少し不安もあったが、すぐに仲良くなることができた。草原生活の中で、みんなで普段することのないようなゲームをして遊ぶのが楽しくて仕方なかった。身体を温めるためにしたジェスチャーゲームは中でも特に楽しくて気に入ったし、ランプなどのゲームも普段は他のことをする方が楽しくてなかなかしないのに、心の底から楽しむことができた。

やっと天気にも恵まれた日、朝起きてゲルの外に出たときの青空の美しさへの感動は忘れられない。まるで絵の具で描いたような鮮やかな青空と手に届きそうで触りたくなる雲を目の前にして、すごく幸せだった。その日は同じゲルだった、翼さん、はるかさん、まき、マッカと一緒にレジャーシートを敷いて外で朝食を食べた後は、まりことモーニングヨガをした。あんなにおいしい空気を吸いながらヨガをしてリラックスしながら、恋愛や人間関係、将来のこと、本当にいろんなことを話し合い、すごく充実した時間を過ごすことができた。モンゴルではお互い、日本での心にあった迷いや悩みに正直になり、自分と向き合うことに努めようと二人で誓った。その意識は本当に自分にとってプラスになったし、モンゴルでの時間の密度を高めることにつながったと感じている。

草原生活の夜は、ほぼ毎晩ウォッカを飲んでいて、寒かったからでもあるが、モンゴル人メンバーと仲良くなる良いきっかけになった。夜飲みながら、日本とモンゴルの違い、文化、お互いが興味のあることについて話し合ったり、クラブミュージックをかけてゲルの中で踊ったりした。モンゴル人メンバーはみんな素直であたたかくて、自分の思っていることをよく話してくれたし、わたしのことを受け入れてくれた。特にツァツァは毎度、嫌な顔ひとつせず、通訳してくれて、とてもありがたかった。みんなよく笑ってよく話す、思いやりに溢れているいい人たちで、彼らも初対面がほとんどだと聞いたときには本当に驚いた。

モンゴルの美しい自然とゲルでの生活、これらはモンゴル Ex 参加前から期待していたもので、実際に期待どおりで、自分の人生で経験できて嬉しかった。しかしそれら以上に、人との出会いに恵まれたことに本当に感謝している。Ex 参加者は日本人もモンゴル人も、人のために何かしようという優しい人がばかりで、見習わなきゃと感じる場面が多々あった。その度に自分の未熟さに気づかされた。モンゴルの草原での生活は、美しい自然に囲まれ、時間感覚がなく、常に心が穏やかで、ストレスフリーで、非日常的な時間だった。自分で気づいて

いなかったが、行く前の自分に必要なものでそれを得られた今、少しではあるが成長できたと感じている。

モンゴル Exに関わられた全ての方々に感謝したい。本当にモンゴル Exに参加できてよかった。

I LOVE MONGOLIA♡

『人に言われて一番うれしい言葉は自分の名前』

古屋 誠彦

突然ですがモンゴルで一番使うモンゴル語って何だと思いますか？

ありがとうの「バイルラー」でしょうか？それとも愛してるの「ハイルタイ」でしょうか？もしかしてトイレに行きたいの「ビザザルガカフ」でしょうか？いいえ違います！それはモンゴル人メンバーの名前です！！

ということで僕はモンゴル人の名前について調べてみました。なじみの薄いモンゴル語ですが名前の意味や成り立ちをしっているだけでもだいぶなじみやすくなると思いませんか？

モンゴルでも日本と同じように1姓2名前との順に描きます。しかしモンゴルでいう姓は一般的には「父親の名前」です。ダレダレ(父親)のナニナニとなります。たとえば人気タレントの関根麻理さんがいますよね？あの方がモンゴルで生まれていたら「ツトム マリ」となる訳です。このように姓は結婚しても変わりませんし代々受け継がれるものでもありません。

〔名前の作り方〕

現代のモンゴルではたいてい二つの単語を合わせて名前を作ることが多いです。たとえば朝青龍の本名はドルゴルスレン・ダグワドルジなのですがドルゴルスレンは姓(つまり父親の名)でダグワドルジが個人名です。ダグワドルジは「ダグワ」と「ドルジ」の二つの単語からなっていて「ダグワ」は「真」、「ドルジ」は「雷」という意味だそうです。女の子にはバラ、チューリップなどの花の名前や清いと言ったような美しく綺麗な意味の言葉が、また男の子には「鉄」「斧」「英雄」と言った強いと言った意味の言葉がよく使われるようです。そういえば木下君も英雄(ハトラ)の名前をつけてもらっていましたね。笑

またニックネームで呼び合うことが多いらしく例えば Bayartsetseg(バヤルツェツェク、バヤルは祭りツェツェクは花)という女の子の人なら

Bayartsetseg → Bayaraa(バイラ)/Tsetsgee(ツェツェゲー)/Tsetsse → Baagii(バーギー)というようにどんどん短くなるようです。ぼくのホームステイ先の妹さんもバイラと呼んでいたし、岡山支部のさっちゃんもツェツェゲーと呼ばれていました。

あなたがモンゴルにいったお互い自己紹介するときには是非とも名前の意味を聞いてみてください。そしてどんどん名前を呼んでみましょう。それが仲良くなる一番の方法だと思います。(^^)

エッセイ

中 雄佑

とりあえずテーマは「時間」とする。モンゴルEx.において最も特徴的なのは、時間というものの概念であると思う。以下に書くことは、大草原の中でしか経験できない(つまり、このEx.のみである)ことであり、また、行かなければそれがどのような価値を有するのかを理解できないであろうと思われる。では、その体験できる時間の概念とはいかなるものなのだろうか。端的に言うと、「無駄の価値」である。草原での日々では、時計もなければ予定もない。つまり暇なのである。日が昇れば起きるし、腹が減れば食べる。少し暗くなってきたなら、お酒を飲んだり星を見たりする。日中は外でボールを蹴っていれば誰かが寄ってくるし、散歩に行きたくなれば行けばいい。いきなり走り出してもいいし、音楽を奏でている人の傍で、それを聞いたりしてもよい。完全な自由。誰も時間など気にしない。日本では考えられない。大学生は暇なものと言われるが、実際には誰もが忙しそうにふるまっている。何かをしなければならない。どこかへ行かなければならない。4年しかないのだから、その間にためになることを。と焦っている。しかし、本当にそうする必要があるのだろうか。世界は広く、人生も長い。何も焦る必要はない。そう思わせてくれる。そして、無駄に見える時間こそが最も大切なのだと。そんな日々だった。

【日中韓経済戦争 in ウランバートル】

今里 基

チンギスハーン国際空港に着いてまず目に入ったのが、東芝のREGZAのテレビ。事前にモンゴル経済は中国資本がかなり入っていると聞いてたので、東芝のテレビを見て、そうでもないんじゃないかという仮説を立てた。そして、ウランバートル市内への移動に使った車は韓国の現代自動車のバス。周りには日本車も多数走ってる。「あれっ？ここはどこの国だ？」と思ってしまった。

市内につくと日中韓はモンゴルで経済戦争でもしているのかと感じた。大体ほぼ同じくらいの割合で日本、中国、韓国企業の広告が目白押し。中にはハングルだけで書いているものもあり、一体どこの国かとさえ思いました。そして、ホテルに着き、その後スーパーでモンゴルの市場状況を見た。行ってみて、また驚いた。7割くらいが中国と韓国の輸入品で占められている印象を受けた。両国で生産している商品にモンゴルの現地語にパッケージを直しただけというのが多数。それもどの製品も。日本製は全体に占める割合は低く、なんだか残念な気持ちになってしまった。ただ、モンゴルの企業の製品となると、スーパーではパンと水くらいしかない印象だ。

さて、ここからが大事なんですが、モンゴルの現状はほとんどの商品を輸入で対応しているということだ。事実自動車もほとんど日韓の車で占められていた。つまり、モンゴルではまだ独自の産業が十分に育っていないということだ(観光業は別かな?)。今回初めてモンゴルに行ったが、日中韓がこうやってどんどん輸出をしている限り、経済成長率は高いとは言え、モンゴルの成長はどうなるんだろうかと感じさせられた。

フリーテーマエッセイ【モンゴル人の名前】

船引 紫緒梨

私は、モンゴル語に興味があったことと、EX 中にモンゴル語の名前をつけてもらったことから、「モンゴル人の名前」をテーマに選びました。モンゴルでは名前を呼ぶ際に、日本でいう「敬称」は付けず、呼び捨てが唯一の呼び方だそうです。モンゴル語の名前について、いくつかの種類に分けて紹介したいと思います。

<チベット仏教が関係する名前編>

モンゴルでは主にチベット仏教が信仰されており、モンゴル人の名前にも大きく影響しています。仏や高僧、信仰に結び付く名前は男性に多いそうです。

ダムディン(馬頭観音)・スレン(守護)、ナツァグ(全ての)・ドルジ(金剛)

ロブサン(賢明な)・ジャブ(庇護)、シャーリーブー(舍利仏)など

<わかりやすい名前編>

女性には美しい名前が多いそうです。私も、EX のモンゴル人メンバーにノミン(宝石)と付けてもらいました。

ナラン(太陽)・トヤー(輝き)、オーヨン(知恵)・ツェツェグ(花)

アリョーン(清らかな)・トンガラック(澄んだ)など

次に、男性の名前の例です。

バヤル(喜び)・サイハン(良い)、バヤン(豊か)・ムンフ(永遠)

トムル(鉄)・バートル(英雄)など

＜変わった名前編＞

モンゴル人の名前には最初に紹介したチベット仏教以外に、ロシアや中国の影響も強いそうです。その例で中国の「鋼(ガン)」から作られた名前がいくつもあります。

ガンバートル(鋼鉄の英雄)、ガンボルト(鋼鉄)、ガントヤー(鋼鉄の輝き)

そのほか、「マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン」の四偉人の名前の頭文字から作った名前、メルス(Mels)。動物にちなんだ名前で、バーブガイ(熊)やブジン(子ウサギ)があります。

EX 中のホームステイ先では、日本人メンバーが3人いたのでそれぞれ、トン(大きい)、トント(中ぐらいの)、チッチゲ(小さい)と、見た目の大きさに付けてもらいました。

日本では漢字の意味を利用して名前を付けることが多いですが、モンゴル人の名前はとてもユニークだったり、カッコよかったり、美しかったり、興味深く感じました。私にとって、モンゴル語の名前のプレゼントはプライスレスな思い出になりました。

フリーテーマエッセイ

小原 伸朗

僕がモンゴルに行って改めて感じたのは、海外には実際に行ってみることでわかるし疑問に思うようなことが出てくるのだということです。まず僕のモンゴルに行く前のイメージでは、モンゴルは草原多く動物多しのどかな国というものだったのですが、実際に行って、都市部に所狭しと並べられた店やビル、クラクションの鳴り止まない交通を見てそのイメージは必ずしもあっていないことがよくわかりました。もちろん、草原では本当にのどかでイメージ通りのモンゴルの生活を送れましたが。また、モンゴルにいて日本と比べるなどして疑問に思ったことがたくさんありました。例えば交通の面では、人々は車の激しく行き交う道路でも横断歩道がないところを横断するのが普通であり、車も先に動いたもの勝ちの状況などから、交通事故は多くないのかと思ったし、発展に伴う交通量の増加に対応できていないのだなと感じました。それに事前学習で調べていたマンホールチルドレンがいなかったのも、僕たちが見ていないだけか、それは冬だけのことなのか、なども考えたし、水が都市部のホテルでも濁ったような水が出てきたり、各家庭にはシャワーが基本ないことに日本とのギャップを感じたりしました。他にも、草原の高いところの山に歩いてのぼり、どこまでも草原が続く壮大な景色を見て、そもそもなんでこんな地形になったのだろうかなども考えたりしました。

僕は海外に行くことはこれが初めてだったのですが、僕にとってあまり馴染みのない国であったモンゴルに実際に行くことによって、逆に様々な発見があり非常に貴重な体験ができたと思います。モンゴルとモンゴルの仲間達ありがとう。

『やっぱり自然はすごかった』

武蔵 翼

ISAに入った1年生の頃、自分がここまでISAにハマることは想像していなかった。そんな私も、今ではすっかりISAにハマりきっています。ISA内で友達が増えるごとに聞いた、「モンゴルEXに行き〜。」私は、生まれも育ちも奈良の田舎。親戚も田舎に住んでいるから、今更何もない国に行ってもね〜って、始めの頃は正直思っていた。でも、いざ4回生になった時、私はどうしてもモンゴルに行きたくって参加しました。理由は、単純!「草原で綺麗な景色が見たい!!」ただ、それだけ。

念願の草原は、想像していたよりも綺麗でただただ感動した。あ〜自然ってやっぱり凄いな!草原の上に寝そべって何も考えない時間が欲しかったから、一人でボーっとしてみたりした。「あ〜日本でこんなにゆっくり空見たことあったっけ〜？」

夜になって、星を見た。

「あ〜星ってこんなにたくさんあって、こんなにきれいなんや〜」

ただただ自然のキレイさ、凄さに感動し続けた1週間。ほんとに来てよかった。心の底からそう思った。

こんな私も、来年の4月からは社会人。とうとう大人になってしまいます。今までと違って、自分の行動に責任が重くのしかかるでしょう。きっと、もっと大人な女になっているでしょう😊笑
きっと、毎日せかせか生きることでしょ。でも、そんな中でも、自然を見て、素直に感動できるだけの心の余裕は常に持っておきたい。どんなにキレイな宝石よりも、満天の星空には敵わない。そんなものを見に付けるよりも、私はキレイな自然を目に焼き付けていきたいって思ったし、そうする。

モンゴルが良いよ!って話してくれた、ISAの同回生、先輩方ありがとうございました。

モンゴルにまだ行ったことのない人!ぜひ行ってみてください。

モンゴルEXに参加したみんな!モンゴルの良さをぜひ友人・家族に伝えてください。

ただ、ボーっとして目の前に広がる自然に感動できる幸せをみんなに広げていきましょう😊

モンゴルでの観光

勝頼 智

モンゴルと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？草原？遊牧民？たしかにモンゴルでは都市から一歩出れば大草原が広がっており、普通に遊牧民が暮らしています。しかし都市であるウランバートルは栄えており、立派なデパートや観光名所も多数あります。私が驚いたのは、都会的な恰好をした人もいれば民族衣装を着た人も普通に歩いていたことです。私は今まで韓国、フィリピンに行ったことがありますが、それらの国とは全く違いました。現代的なものを受け入れながらも伝統的なものも多く残っているモンゴルの不思議な文化を感じました。

ウランバートルではモンゴル国民の約半分が生活していることもあり、若者が遊ぶような場所が沢山あります。遊園地、デパート、サーカスなどなどが歩いていける距離に密集しているのです。夜はバーやクラブに行くのもいいでしょう。

しかし一方で治安はいいとは言えません。夜は絶対に一人で外にでてはいけないとホームステイ先の学生にも言われましたし、実際に窃盗や暴行の犯罪が絶えないそうです。

またモンゴルでは全く英語が通じないため、個人旅行をすることがとても難しい土地ではないかと思います。（パックツアーや現地で通訳を雇っての旅行者がほとんどのようでした）

モンゴルでの時の感じ方

岩根 悠

モンゴル Exに参加したきっかけは、就職活動をし、時間に拘束された毎日が続き、心が疲れてしまい、「時間にとらわれずに生活ができたらな」と思ったことがきっかけです。モンゴル Exでの生活は本当に拘束するものではありませんでした。拘束するものがないというよりか、拘束できないものでした。つまり、人の力ではどうしようもなく自然の影響をもろに受けるのです。日本では雨天決行という言葉通り、雨が降っても予定は決行されます。しかし、モンゴルでは雨が降ると外で予定していたことができなくなります。今回の Ex では3日ほど雨が降りました。そのため、予定が変更されました。日本でいた私は予定が狂ってしまうため、うっとおしく思っていました。しかし、モンゴルでは雨が降ると気温が下がるので体調を崩さないかなどを気にしていました。予定が伸びても支障がなく、それに雨が降らないと逆に放牧の馬などのエサが育たなくなるので困ってしまうのです。

このように、時間に拘束されず、また多くの時間を自由にすることができたので、音楽を奏でる人、絵を描く人、飛行機を作る人、みな思い思いに過ごしていました。この自由さが何よりも開放的な心地になり、気持ちよかったです。

すばらしい Ex を作ってくれたモンゴルメンバー、さまざまな運営を支えてくれた団長をはじめ日本人メンバー全員に感謝しています。ありがとうございました。

フリーテーマエッセイ

石田 光

わたしはモンゴルに行って、都市部に人口が集中している現状と、それにより発生している交通渋滞になにより驚きました。Exに参加するまで、モンゴルには内陸地や草原の印象しかもっていなかったもので、その印象は大きく変わりました。とくに交通渋滞は、モンゴルメンバーやジャギさんも言っていましたが、とても重要な問題だと感じました。鳴り響くクラクションの音はとてうるさく、排気ガスのにおいも臭く、都市部を歩くことはあまり気が進みませんでした。信号も整備されてはいるのですが、車があまりにも多く、車用の信号も歩行者用の信号もほとんど守られてはいません。Ex中、車に乗っていて交通渋滞にひっかかっていたときに、ホームステイ先の子の祖父が倒れたとの知らせが来たことがありました。まったく身動きが取れず、すぐに駆けつけることができませんでした。もし、急病人がでたときに、救急車などはあるのだろうか、あったとしてもまったく機能しないのではないかと私は思いました。普段の生活はもちろんですが、緊急時に備えて、交通渋滞の解消にもっと力をそそいでも良いと感じました。Ex全体を通して、(モンゴルという国のことを私がほとんど知らなかったせいということもありますが) 発展していると感じた部分が多かったです。しかし、車を30分ほど走らせると草原が広がり、動物が沢山いて、もっていた印象通りのモンゴルも感じられました。どちらも今のモンゴルの様子で、私が知らないことばかりでした。知らないことを知れた、それだけでも私にとってこのExはとても、とても良いものになりました。最初は先輩方に囲まれて不安でしたが、沢山の人の助けをもらい、”世界はもっと豊かで、人はもっと優しい”という言葉の意味がやっとわかった気がします。私の初めての海外がExだったことをとても嬉しく思います。

フリーテーマエッセイ

木下 陽介

空港に到着しウランバートル市内へ移動する途中。ウランバートル市内。建設中の建物や新しい橋や道路の建設現場の多さ。日本の高級車はもちろん海外の名の知れた高級車も多く走っていた。買い物をする大勢の人々。経済発展著しいモンゴル。今回のExでその現状を見ることが出来た。物価は日本に比べ大分低い印象を受けたが現地の人の感覚ではそれでも昔に比べ大分高くなったとのことだ。最近また高くなったと言っていた。人々の生活レベルがなかなか追いついていない。これがモンゴルの現状だそう。インフラについても未だ不安定で停電や断水も滞在中に経験した。頻繁にはないがたまに起こると話していた。急速な経済発展に伴う負の側面も10日間滞在していると見えてきた。日本も経験した急速な発展そこにはやはり負の側面も存在する。モンゴルの強みである資源の豊富さこれが現在の経済発展を支えている。ここで問題となるのが資源は有限であるということだ。市内で目にする看板や建物そこには外国メーカーのロゴが多く見られた。モンゴルに不足するのはグローバルに活躍する企業の数だ。資源ビジネスが衰退し始めたらモンゴルはどうになってしまうのだろうか。多くの外資マネーに支えられる経済発展は望ましいものとは言えない。しかし、この経済発展により人々の生活は便利になりいままではなかったモノが手に入るようになり新しい幸せを感じる事が出来るようになった。いつまでもこのままではいけない。きっとモンゴルの人々もそう思っているはずだ。大きく広い心をもったモンゴルの人々ならきっと活路を見いだせる。そう信じて今後もモンゴルに目を向けていきたいと思う。

フリーエッセイ

池田 奈那

モンゴルは想像していたよりも発展した国であった。人口の約半分が住む首都ウランバートルには、大きなビルやショッピングセンターが立ち並び、人の活気で溢れていた。しかし水が赤く濁ることもあれば電気も通らなくなるような日があったりして、まだまだ発展途上であることを感じさせられる一面もあった。空気は乾燥していて砂埃がひどく、私は始終のどをやられてしまっていた。郊外へ行くともう草原しかない。伝統的なゲルでの遊牧生活の様子が窺えるようになる。そこには電気もなければ水もない原始的な生活があって、日本とは違うモンゴルの歴史を感じさせられた。水が少なく、豊富な作物もとれないこの国では、家畜を大切に育て、その家畜と共に人が生きていた。人と動物と自然とがとても近い距離で共存している文化を肌で感じた。

最近のゲルでの遊牧生活では、冷蔵庫があったりテレビがあったりするようだが、私は何も無い生活の方が好きだ。何もないからこそ、何かを生み出そうと自然から力を借りて人同士が協力して生活をするのではないだろうか。そのような生活を基にしてきたモンゴル民族には、とても温かく他人を気遣える国民性があるように感じた。日本人とはまた違う優しさと国民性であった。しかしモンゴルはそんな温かいだけの社会ではない。モンゴル人メンバーと話す中で、当人たちが権力や貧困に振り回されながらも懸命に生きていることを知った。“モンゴルは40年前の日本”と聞いていたが、まさに権力と人の欲が渦巻く社会の一面もある。温かいだけではないが、これからがとても期待できる国だと感じた。

「命の洗濯」

藏本 司

「そもそもなぜモンゴルに行くの？ヨーロッパとか個人旅行でいかないの？」とモンゴルに行く前に友人に言われた。たしかに個人旅行も楽しい、個人旅行どころか大学生活はあっちこっちに楽しいことが盛りだくさんだ。ではなぜ4年生という最後の年の夏休みのうち2週間という長い時間をさいてモンゴルに行こうとしたのか？それは2年前にモンゴル Ex2010 のムービーを見たからである、そのムービーからは今まで自分が大学生活で楽しんできたものとはまったく別種の楽しさが伝わってきた。見た瞬間に「絶対行く」と決意した。

そして念願かなって私が経験したのは期待していた以上に贅沢な時間であった。時計や携帯を見ることもなく日付の確認もしなくなるほど自由で開放的な楽しさだった。日々を本気で楽しもうとするみんなの純粋な姿勢はまるで小学校の頃のようにどこか懐かしささえあった。しぬほど遊んで、歌って、散歩して、思いっきりご飯をたべてすやすや寝る！後輩の話をきいて昔をすこし懐かしんだりもした。それも抜けるようなそらと果てしない大草原のなかで、天国だった！どこのリゾートよりも気持ちよくて楽しい空間だった！メンバーのみんなを大好きになった。

——そして今までの大学生活をゆっくりと振り返ることができた。このモンゴル Exに來れたことも含めて後悔のない大学生活だった。好きなことをして、いろんなことに本気になれたし、時には本気で泣くこともあった。ともにいろんなことをのりこえた仲間もできた。

同世代と20数人で、頭をからっぽにして大草原で遊ぶ！こんなことはもう二度とできないかもしれないがそれでも1回できただけ私は果報者だ。大学生最後の年に最高の命の洗濯ができた。ありがとうモンゴル！

みんなとまた大草原に訪れる日を願って。

フリーエッセイ

上原 万理子

モンゴルは日本とは違う文化がたくさんありました。その中で最も衝撃的だったことを3点挙げたいと思います。

1つ目はタクシーです。他の交通手段がない為か道にはタクシーを待つ人がたくさんおり、それに対して止まる車は普通の車だったのです。つまり暇がありタクシーをする意思があれば誰でもできるのです。車にはきちんとおつり用の細かいお金が用意されていて、日常的なことなのだと実感しました。ちなみにですが現地の方達がそのようにラフな感じでやっているものなので日本語や英語が通じるとは考えにくいので必ず現地の人と一緒に乗るべきだと思います。タクシー会社が激しい競争を繰り広げている日本では考えられないことで驚きました。タクシー会社のタクシーに乗ったときの安心感は今でも忘れられません。

2つ目はアイスクリームです。カップのアイスクリームにビニールなどのカバーではなくただ円形の紙を1枚貼付けるようにのせているものがスーパーなどのアイス売り場においてありました。日本では苦情殺到、そのまえに企業側も恐ろしくて出来ないであろう売り方で、手を伸ばすことはありませんでしたが、穏やかな国なのだとそれをみて少しうらやましくもありました。

最後に自由すぎる交通ルールです。車に目をやれば追い越したものの勝ちの競争があちらこちらで繰り広げられ、よっぽど危険好きなのかスレスレのところを通りたがるもの続出でここだけでは運転は出来ないと感じました。ただ1つ言えることはモンゴルの男性はかなりの運転技術があるということです。歩行者は隙あらば道をわたっていたので私もそれになれ、日本でもうっかりしてしまいそうになることもしばしばありました。

他にも発見や驚きがたくさんあり、モンゴルへの興味関心がどんどん深くなりました。モンゴルにもう一度行きたいと思う大きな理由は出会った人たちの温かさとかこういった面白い独特の文化にあります。また次回行く時には違った驚きを体験できるのではないかと期待しています。

フリーエッセイ

山口 弘将

一言で表せば、「自由」が一番しっくりくるExでした。時間は気にしません。To doなんてありません。好きなことを好きなだけできます。遊びまくれます。昼寝もできます。日焼けもできます。ヨガなんてのもできます。トイレが斬新すぎます。草原は私たちのすべてをリフレッシュさせてくれるし、新たに得ることのできる経験もあります。夜は見渡す限り星です。でも、下手に歩き回る

とナニかを踏んじゃいます。モンゴル人はみんな優しいし、フレンドリーです。日本語をわかってくれるので臆せず話せます。そしてウオッカもたくさん飲めます。夜には大人なゲームも楽しめたりします。終わり。

麓 磨紀子

Exが終了して1か月以上経った今もなお、今回のモンゴルExに参加することができて私は幸せ者だなと痛感しています。授業の補講が被って勉強会に行けなくて、みんなと仲良くなれるのかなとほんの少し不安に思う面もあった。しかし、現地についてそんな悩みも吹っ飛びました。あたり一面緑で覆われ、本当に草原と青空しかない。「そんな環境で生活するなんて一生に一度あるかないかの出来事じゃないかなー。それやったら楽しみな損や！時間もいっぱいあるし、みんなとゆっくり仲良くなればいーや！」という楽観的？な考えでExに臨んだ。

草原では、晴れた日には外でビニールシートを敷いてみんなで絵をかいたり、歌を歌ったり昼寝をしたり、馬に乗った。雨の日にはゲルで花札をしたり、恋バナをしたり自分の将来について語ったり…。夜には満天の星空のもとで歌を歌ったり、星を何時間もぼーっと眺めて、流れ星が流れるたびに声を上げたり…。草原では時々遠くで馬が駆けていった。また、牛がゲルの近くまで来て簡易水道をツノで破壊したり、ヤギの大群がトイレの囲いを踏みつけ、トイレに行こうとしたらヤギの大群に威嚇されたり…。ハプニングも沢山ありましたが、それも大切なExの思い出です(笑)

今回の日本人、そしてモンゴル人メンバーと出会えたことが、私にとって一番の幸せです。みんな優しくて、おもしろくて、気遣ってくれて…。10日間くらいの付き合いだったけれど、みんなと同じ時間を共有できて本当に楽しかった！

日本では絶対に体験することのできない体験をできて、また、最高の仲間に出会えて本当に幸せです！いつかまたみんなとあの草原で時間を共に過ごせる日が来るといいな。

ひとつの夢が叶った瞬間

榮口 徹哉

私は大学に入り、様々な部活やサークルを見、時には落語研究会にあと一步で入部のところまでいきながら、I.S.A.に出会い4月のプログラム紹介でモンゴルExに出会った。その時聴いた話、見た写真は今でも昨日聴いたかのようにずっと心に残っている。その中でも私の心を驚掴みにして離さなかったのは、“星”に関するものだった。

「星メッチャ綺麗やでー！」

「満天でどこ見ても星ばっかり」

「流れ星も普通にたくさん見れるし」

そう言って見せてくれた写真に写るのが、草原にできた轍の上に、大の字に寝転がって空を見上げている先輩達の姿。それを見た瞬間に、自分もこんなに自由なところへ星を見に行きたい！と強く想いを募らせた。

そして4年生となった2012年夏、遂にモンゴルExに参加することとなり、これまで4年間想いを募らせ続けたモンゴルの大草原へとワクワクを抑えきれず飛び込んだ。

初日の夜。見上げた先の空の、あまりの綺麗さに言葉を失った。空の端から端を切り裂くような流れ星を見て、思わず叫び声を上げた。寒い中みんなで肩を組み手を繋ぎ、歌いながら空を見上げて、涙が出た。

モンゴルEx.にはこれ以外にももちろん、楽しみはたくさんある。しかし、私にとってはこの瞬間が間違いなく幸せであり、これまで夢見たものが叶った瞬間であった。



必要な持ちもののリスト

	✓	品名
貴重品		パスポート
		現金(日本円)2～3 万円
		参加費(今年度は 650 米ドル)
		国際クレジットカード
		航空券(E チケット)
		海外旅行保険のコピー
		携帯電話
		パスポートのコピー
筆記具		ボールペン
		メモ帳
洗面用具・衛生用品		石鹸
		タオル
		歯ブラシ・歯磨き粉
		コンタクト
		日焼け止め
		化粧品
		シャンプー & コンディショナー
		水がないシャンプー
		ポケットティッシュ
		ウェットティッシュ
		ボディーシート
		爪切り
		洗濯バサミ
		洗濯用ロープ
		生理用品
		洗剤
		ひげそり
		変換プラグ
		綿棒
		カイロ

衣類	シャツ
	下着
	帽子
	長ズボン
	スニーカー
	サンダル
	サングラス
	ダウンジャケット
	腹巻き
	ネックウォーマー
	靴
	ウランバートル用のおしゃれファッション
薬品・雑貨	常備薬
	リップクリーム
	ハンドクリーム
	肌水
	目薬
	のど飴
	のどスプレー
	ビニール袋
	カメラ・ビデオ
	デジタルカメラ
	充電器
	懐中電灯
	電池
	雨具
本類	辞書
	ガイドブック
	指差し会話帳
お役立ちグッズ	ボール
	シャボン玉
	水鉄砲
	日本のおもちゃ
	楽器

	音楽
	メッセージカード
	殺虫剤
	ゼリー系飲み物
	カップラーメン
	カレールー
	日本の調味料
	スポーツドリンク(粉末)
	トランプ・UNO
	自分の写真
	絵具
	スケッチブック
	色鉛筆
	おやつ
	お土産
	タバコ
	レジャーシート
その他	スイパ用のお菓子・お酒
	文化紹介で使うもの



文化紹介感想

モンゴルEx2012 では文化紹介では「たこあげ」「うらじゃ(岡山の伝統的な踊り)」を企画し実行しました。文化紹介を担当したメンバー4 人に以下のことを聞きました。

① 文化紹介の感想

② 反省点や改善点

この報告書をみて、次の文化紹介を企画する人たちに参考になれば幸いです。

古屋誠彦

① 文化紹介の感想

ぼくたちは文化紹介で凧揚げとうらじゃ(岡山県の盆踊り)をしました。

文化紹介という名前だけみると堅苦しいようですが、実際はモンゴル人メンバーと一緒に日本の遊びをただけです笑

当初の予定では歌もうたうはずだったのですが、文化紹介までの間にすでにチェリーを4、5回歌っていたので急遽歌はやめにすることにしました。

凧揚げとうらじゃ以外にこまや剣玉やめんこをもってきてくれた子がいてモンゴル人のメンバーもとても楽しんでくれてたと思います。

今から考えると凧揚げとうらじゃだけでは少し寂しかったので日本の懐かしいおもちゃを持ってきてくれたのは超絶ファインプレーでした。

② アドバイス

- ・ モンゴルは基本ゆるい。

文化紹介と最初聞いたときは何か固いものなのかなと思ったのですが実際は全然そんなことはなく「なんか天気いいし、ちょっとやりますか」ぐらいのノリです。だからあまり固くならず自由に自分たちのしたいことをやれば良いと思います。

- ・ 草原では練習はできない。

モンゴル人メンバーから隠れて草原でうらじゃの練習をしようとしたのですが結局みつかって文化紹介より前に一緒にうらじゃを踊ることになりました。笑 なので当日までネタバレしたくない出し物をするつもりならできるだけ日本にいたときに練習した方が良いでしょう。

- ・ 「作る系」は事前に試作を！

凧は自作キットのようなものを使用し、文化紹介の前日に試作しました。最初は全く上がらず2時間ほど試行錯誤してやっと揚がる凧の作り方がわかりました。当然のことですが作るタイ

ブの遊びは事前に試作しておくことをお勧めします。

○最後に

モンゴルでは何がおこるかわかりません。以外にめっちゃ雨が降ったり、こっそり練習してたらじゃが見つかったりします。(笑)当初の計画にとらわれず臨機応変に楽しむことが一番大切だと思います。

石村 祥

① 文化紹介感想

今回の文化紹介をして感じたことは日本の文化に興味をもってくれることがいかに嬉しいかということでした。モンゴル人メンバーのみんながとても楽しそうに、日本の遊びをしてきている姿を見て、日本を知ってもらえているのだと嬉しく思いました。

また、私たちも普段はなかなか遊ばない昔の遊びをすることで、改めてその面白さに気付くこともできました。ただ、私たちに少し知識が足りなかったため、聞かれたことに答えられなかったことは少し残念でした。しかし、この文化紹介を通して共に遊び、作り、踊り、実際に触れあったりすることで精神的にもより身近になり、仲良くなれたことが何より嬉しいことでした。

② 来年におけるアドバイス

今回は仕事のほとんどをふっちゃんさんをお願いしてしまい、仕事量にかなりの差が生まれてしまいました。そのため、まずは係内でしっかりとした役割分担を行うことが大切だと思います。

実際に文化紹介内のことでいうと、はさみや文具類など実際に必要となる道具などは少し多めに用意しておくことも大切だと思います。また、紹介するものに対する日本人の知識が足りなかったようにも思うので、少しでもその歴史などを勉強していくべきだとも感じました。

新見 京子

① 文化紹介感想

今回の文化紹介をして感じたことは日本の文化に興味をもってくれることがいかに嬉しいかということでした。モンゴル人メンバーのみんながとても楽しそうに、日本の遊びをしてきている姿を見て、日本を知ってもらえているのだと嬉しく思いました。

また、私たちも普段はなかなか遊ばない昔の遊びをすることで、改めてその面白さに気付くこともできました。ただ、私たちに少し知識が足りなかったため、聞かれたことに答えられなかったことは少し残念でした。しかし、この文化紹介を通して共に遊び、作り、踊り、実際に触れあったりすることで精神的にもより身近になり、仲良くなれたことが何より嬉しいことでした。

② 来年におけるアドバイス

今回は仕事のほとんどをふっちゃんさんをお願いしてしまい、仕事量にかなりの差が生まれてしまいました。そのため、まずは係内でしっかりとした役割分担を行うことが大切だと思います。

実際に文化紹介内のことでいうと、はさみや文具類など実際に必要となる道具などは少し多めに用意しておくことも大切だと思います。また、紹介するものに対する日本人の知識が足りなかったようにも思うので、少しでもその歴史などを勉強していくべきだとも感じました。

石田光

① 文化紹介をしての感想

わたしは今回の文化紹介で、みんなで楽しむことが1番大切なのだと思いました。文化紹介をしなくても、色々なところでお互いの違う文化を感じることができます。そういった点からは、むしろ、Ex 全体が文化紹介なのではないかとも感じました。その中で、あえて日本”らしい”ことをみんなですることは、みんなで楽しむことへの近道だと思います。人が30人近くいれば、みんなで何かをするというのは中々難しいことです。なんだかんだグループができてしまったりもします。けれど、うらじゃのように、半強制的にみんなで手をつないで回ること、どんな人も笑顔になることができると感じました。文化紹介の係の仕事はほとんどしていませんが、みんなが楽しんでいる顔がみることができてとても嬉しかったです。

③ 後輩へのアドバイス

わたしは今回の文化紹介でうらじゃは本当に良いと思いました。簡単にみんなのできることは必ずしたほうが良いと思います！文化紹介ではないのですが、色おに、缶けりなどもとても楽しかったので、こった遊びでなくても良いと思いました。何をしても楽しかったです！



次世代へのアドバイス

モンゴル Exに参加する人のためにいろいろな疑問をQ & A 形式で答えていきます！

Q1 ホームステイは何人ずつ何軒に行くのですか？

A1 今回のモンゴル Ex では、1軒あたり日本人2～3人ずつで3日間同じホームステイ先でした。日本メンバー、モンゴルメンバーの人数によって変わってくると思います。

Q2 水について教えてください。

A2 今回のモンゴル Ex では、草原で過ごす期間は500mlのミネラルウォーターを1日1本～2本もらえました。都市では自分のポケットマネーで買います。水道水は飲めません。

Q3 トイレはどうするのですか？

A3 草原にはトイレはありません。男性陣で穴を掘り、男子トイレと女子トイレを作ります。見えないようにするためにビニールで覆うのでそんなに心配はありません。それでも心配な方は、ストールや巻タオルなどを持っていく安心です。トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュなどは絶対に持っていきましょう。穴を掘るための道具は用意してくれるので、持っていく必要はありません。

ホームステイでは、水洗トイレのところもあれば、ぼっとうん便所のところもあります。

Q4 マイ箸マイコップはいりますか？

A4 食事のときはスプーンやフォークやコップが用意されていたので、特に必要ありません。

Q5 カラオケの代金は参加費に含まれていますか？

A5 今回のモンゴル Ex では、含まれていました。

Q6 どんな虫がいますか？

A6 草原には、バッタ、ハエがたくさんいました。蚊やクモも少しいました。

Q7 文化紹介やお土産は何を持っていったらいいですか？

A7 日本のお菓子、日本食(米、ふりかけ、炊き込みご飯のもと日本茶、扇子、インスタントラーメン、味噌汁、お酒(日本酒、焼酎)、おつまみ、コーンスープ、カレールー、竹とんぼ、独楽、凧、剣玉、花札、モンゴルの指差し会話帳、折り紙、折り紙の本、千代紙、和紙、写真(桜や庭園など)、国語の問題集、侍のカツラ、扇子、孫の手、風鈴、手ぬぐい、風呂敷、和柄ソックス、和柄ストラップ、和柄ポーチ、雑誌(相撲やファッション系など)、カイロ、シートマスク など。

Q8 食事は口にありましたか？

A8 日本食と比べて薄味ですが、今回のモンゴル Ex では、コックさんの料理がとてもおいしく、毎回の食事を楽しみに過ごせました。肉料理や麺、スープのようなものが多く、野菜が少ないように感じました。年度によっては、日本人の口に合わなかった年もあるそうなので、調味料やインスタントラーメン、栄養機能食品、サプリメントなどを持参すると安心です。

Q9 充電はどうやってしましたか？

A9 草原には電気がありません。ソーラー発電の充電器やバッテリーを多めに持っていくといいです。シャワー施設では店員さんにお願いをしたら、充電をさせてもらえました。変換プラグが必要です。電圧が大きいものを充電するときは、変圧器も必要です。ホームステイ先では充電をさせてもらいましたが、電気は大切なのであれもこれもちすぎないようにした方がいいと思います。

Q10 どのような服装で過ごしますか？

A10 草原では草が長く虫が多いので長いズボンがおすすめです。(ジャージやジーンズなど) 草原では歩きやすいスニーカーとクロックスの両方があると便利だと思います。日中は半袖Tシャツや長袖Tシャツで過ごせますが夜は真冬並みに寒いので、ダウンジャケットやマフラー、ネックウォーマー、手袋などの防寒具が必須です。また、日中は日差しが強いので、紫外線対策に帽子やサングラス、日傘があるといいと思います。

市内は都会なので、普段着 or おしゃれな服装が必要です。今回のモンゴルExでは、最後の晩のカラオケパーティーでおしゃれな服を着ました。

Q11 スーツケースで大丈夫ですか？

A11 スーツケースで大丈夫です。

Q12 どんな薬を持っていくといいですか？

A12 正露丸、風邪薬、キズパワーパッド、絆創膏、冷えピタ、シップ、消毒液、胃薬、頭痛薬、かゆみ止め など。



モンゴル Ex 報告書(一般公開用) 2012年度版

編集責任者 横井 星帆

編集者 岩根 悠

奥迫 翔子

麓 磨紀子

発行日 2012 年 9 月 25 日

発行元 International Student Association(日本国際学生協会)



MONGOL EX 2012
International Student Association